

番号	19	名称	山の上ホテル本館		
指定日	平成 15 年 6 月 9 日		所在地	神田駿河台一丁目 1 番地	
設計者	ウィリアム・メレル・ヴォーリズ		竣工	昭和 12 年 (1937)	
					
<p>歴史・文化的特徴</p> <p>建物は、石炭王・佐藤慶太郎の資金により、生活改良と社会改善を目指す人道主義的な理想を掲げた運動の拠点として建てられた「佐藤新興生活館」を、1954 年にホテルに転用したものである。</p> <p>戦後GHQ（連合国軍総司令部）に接収され、アメリカ合衆国婦人陸軍部隊の宿舎だったこともある。</p> <p>出版社の多い神田にあるため、作家や評論家の執筆場所に利用され、多くの文化人に愛され、著名な小説や評論の原稿がここから生まれた。</p>					
<p>意匠・構造の特徴</p> <p>教会、住宅や学校建築を多く手がけたヴォーリズの設計になる外観は、白色タイル貼りのモダンなスタイルであるが、垂直方向を意識した窓配置、ファサード中央の塔、アールデコ風の幾何学模様を施した玄関入口などが建物を印象づけている。</p> <p>昭和 50 年代に保存を前提に大幅な増改築が行われたが、外観は原型をよく残しており、保存再生の好例といえる。</p>					
<p>周辺景観との関係</p> <p>区内で最も高台に立地しており、シンボリックな塔をもつこの建物は、地域のランドマークになっていた。周辺の明治大学の高層化により、ランドマークとしては目立たなくなったが、急な坂道に臨む景観の印象は維持され、新しい建物の中でも違和感なく、存在感を維持している。</p> <p>建物の白、ホテル敷地内の樹木の緑のコントラストが通りに潤いを与えており、後に建てられたパーキングタワーは、蔭で覆うことで景観を損なわないように配慮された。</p>					